河間小学校の在り方に関する
アンケート結果

令和８年９月
筑西市教育委員会

目次

Ⅰ　アンケート調査概要 1
　１　アンケート調査の目的 1
　２　基本的事項 1
　３　回答状況 1
　４　留意点 1
Ⅱ　アンケート調査結果 2
　問１　お子様は何年生ですか？【複数選択可】 2
　問２　１学年あたりのクラス数は、何クラスが望ましいですか？ 3
　問３　複式学級についてあなたの考えに近いものを選んでください。【複数選択可】 4
　問４　河間小学校の児童数についてどう思いますか？ 5
　問５　河間小学校は、学校の適正配置（統廃合等）についての検討が必要だと思いますか？ 6
　問６−１　検討するべきを選択した理由は何ですか？【複数選択可】 7
　問６−２　検討する必要はないを選択した理由は何ですか？【複数選択可】 8
　問７　今後の河間小学校の適正配置の対応として、何が適当だと思いますか？ 9
　問８−１　義務教育学校の設置を選択した理由はなんですか？【複数選択可】 10
　問８−２　小学校の統廃合を選択した理由はなんですか？【複数選択可】 11
　問８−３　小規模校の維持を選択した理由はなんですか？【複数選択可】 12
　問８−４　その他を選択した理由は何ですか？【自由記述】 13
　問９　適正配置（統廃合等）を進める上で不安なことはなんですか？【複数選択可】 14
　問 10　学校の在り方や適正配置について、ご意見がある場合は、自由に入力してください。 15
Ⅲ　参考資料 18

Ⅰ　アンケート調査概要

1　アンケート調査の目的

学校の適正配置を検討するにあたって、現在、複式学級が編制されている河間小学校の今後の在り方を検討する上での基礎資料とするため、河間小学校区の保護者を対象にアンケート調査を実施するもの。

2　基本的事項

⑴アンケート名

河間小学校の在り方に関するアンケート

⑵調査期間

令和８年７月 15 日～令和８年８月 16 日

⑶調査対象

河間小学校の保護者及び河間小学校区在住の未就学児の保護者：61 世帯

※　令和８年７月１日現在。

※　兄弟姉妹がいる場合でも、回答は１回のみ。

⑷調査方法

オンラインによる無記名のアンケート調査

※　河間小学校の保護者に対しては、学校から「マチコミ」等の連絡手段で通知し、未就学児の保護者に対しては、教育委員会から通知文を発送して、回答を依頼。

3　回答状況

回答数：43 世帯

回答率：70.5%

4　留意点

・　小数点第２位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある。

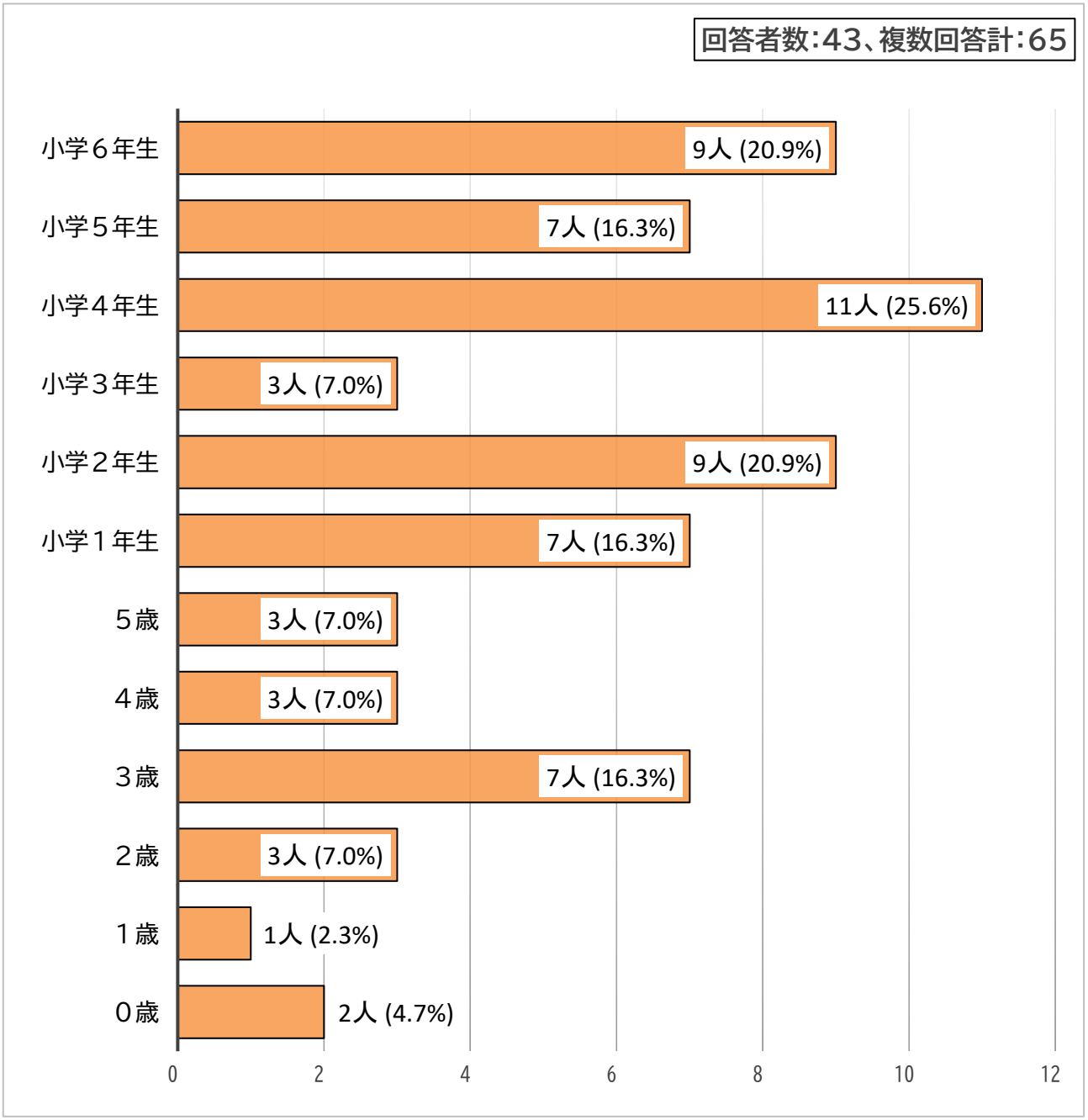
・　自由記述の回答は、基本的に誤字等の修正を除き、原文のまま掲載するが、個人が特定される可能性があるものは割愛する（学校の適正配置の検討においては、全文を適正に管理し活用する）。

Ⅱ　アンケート調査結果

問１　お子様は何年生ですか？【複数選択可】
※お子様が複数いる場合は、すべて選択してください。
※未就学の場合は、Ｒ8.7.1時点の年齢を選択してください。

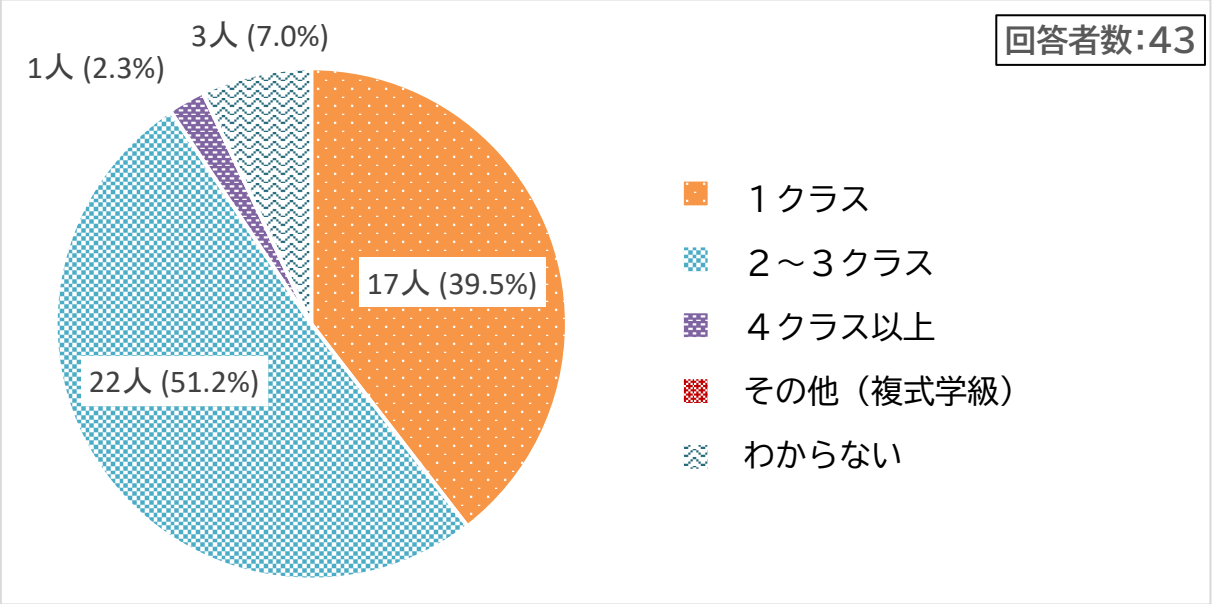
お子様の学年については、「小学校４年生」の回答が最も多くなっています。

なお、小学校１～６年生については、調査対象である未就学児の世帯で、兄姉が指定校変更により河間小学校以外の小学校に通学している場合があるため、現在の河間小学校の児童数より多くなることがあります。



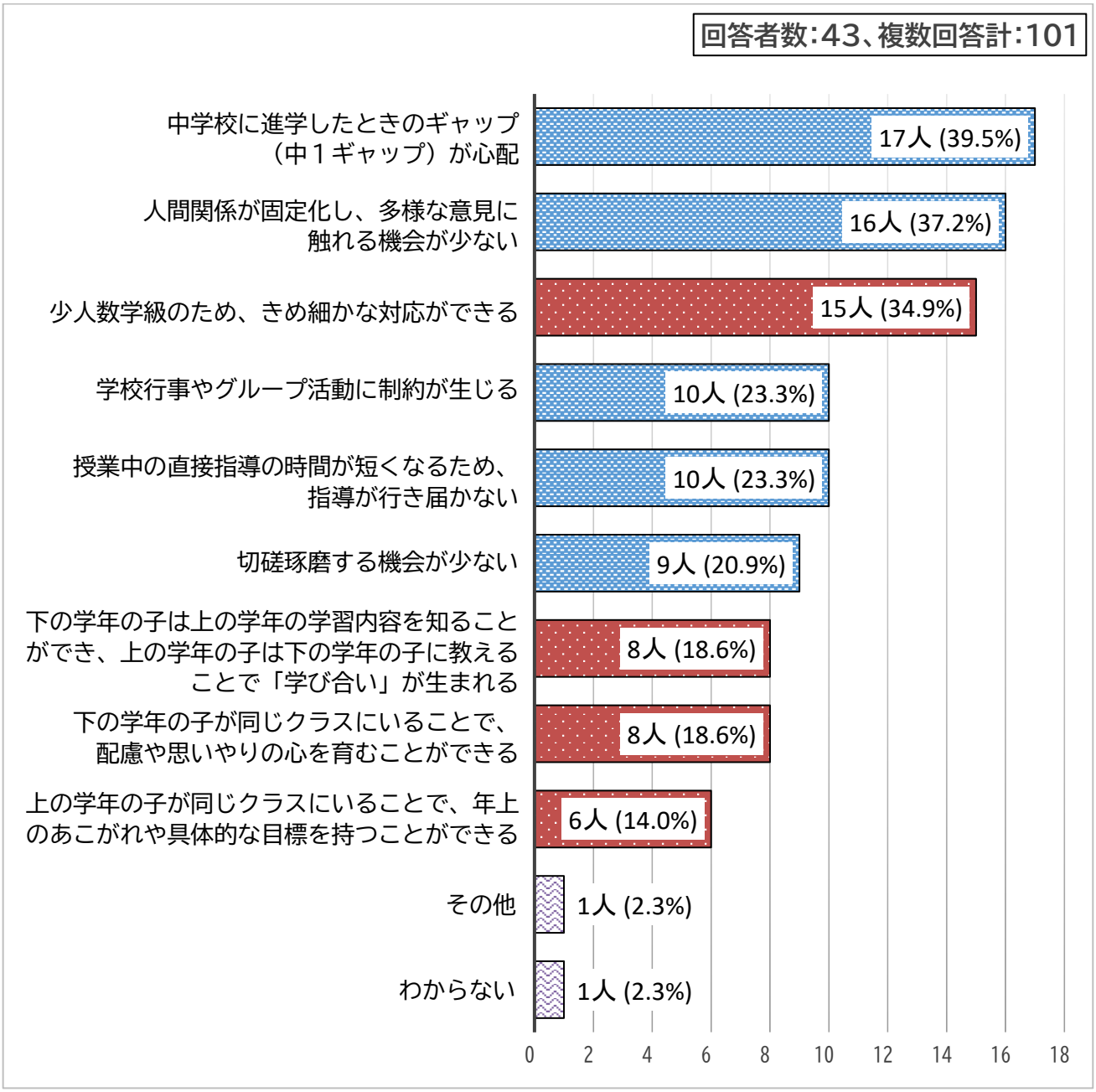
問２　１学年あたりのクラス数は、何クラスが望ましいですか？

１学年あたりの望ましいクラス数については、「２～３クラス」が最も多く、全体の 51.2%となっており、回答者の半数以上が選択しています。一方で、「１クラス」が次に多く 39.5%となっています。「その他（複式学級）」は、０件でした。



問３　複式学級についてあなたの考えに近いものを選んでください。【複数選択可】

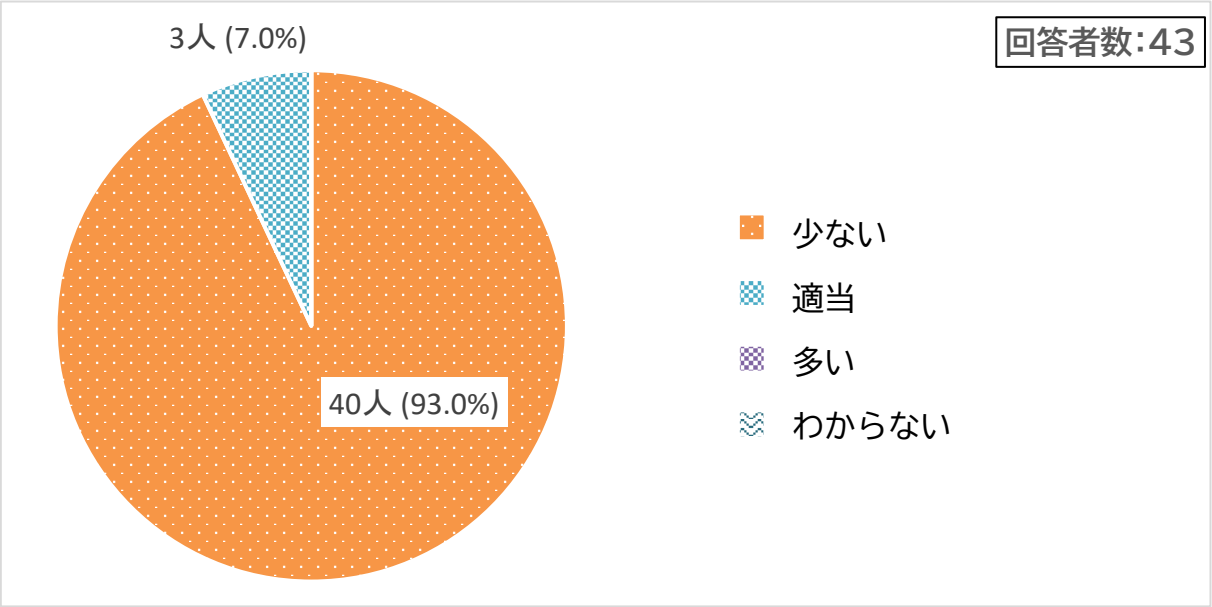
複式学級については、「中学校に進学したときのギャップ（中１ギャップ）が心配」が最も多く、回答者の 39.5%が選択しています。次いで「人間関係が固定化し、多様な意見に触れる機会が少ない」、「少人数学級のため、きめ細かな対応ができる」が多い回答となっています。全体としては、ポジティブな意見に比べ、ネガティブな意見が上位に多い傾向がみられます。



＜その他の意見＞	
1	実際に子どもが複式学級で『同学年だけのクラスが良かった』とずっと言っている。デメリットしかない

問４　河間小学校の児童数についてどう思いますか？

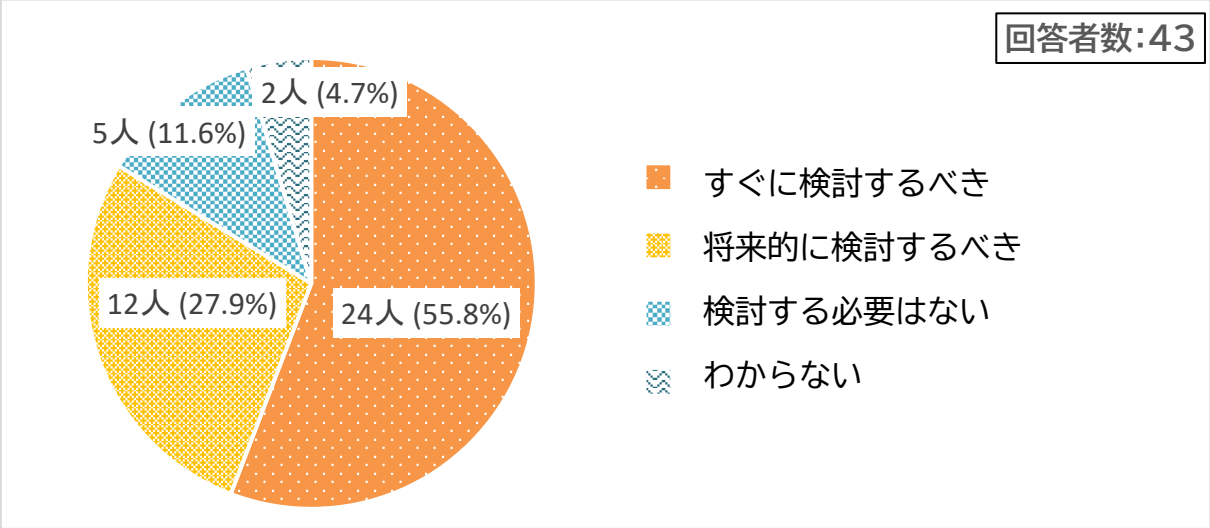
河間小学校の児童数については、「少ない」が最も多く、93.0％を占めており、ほとんどの回答者が少ないと考えています。

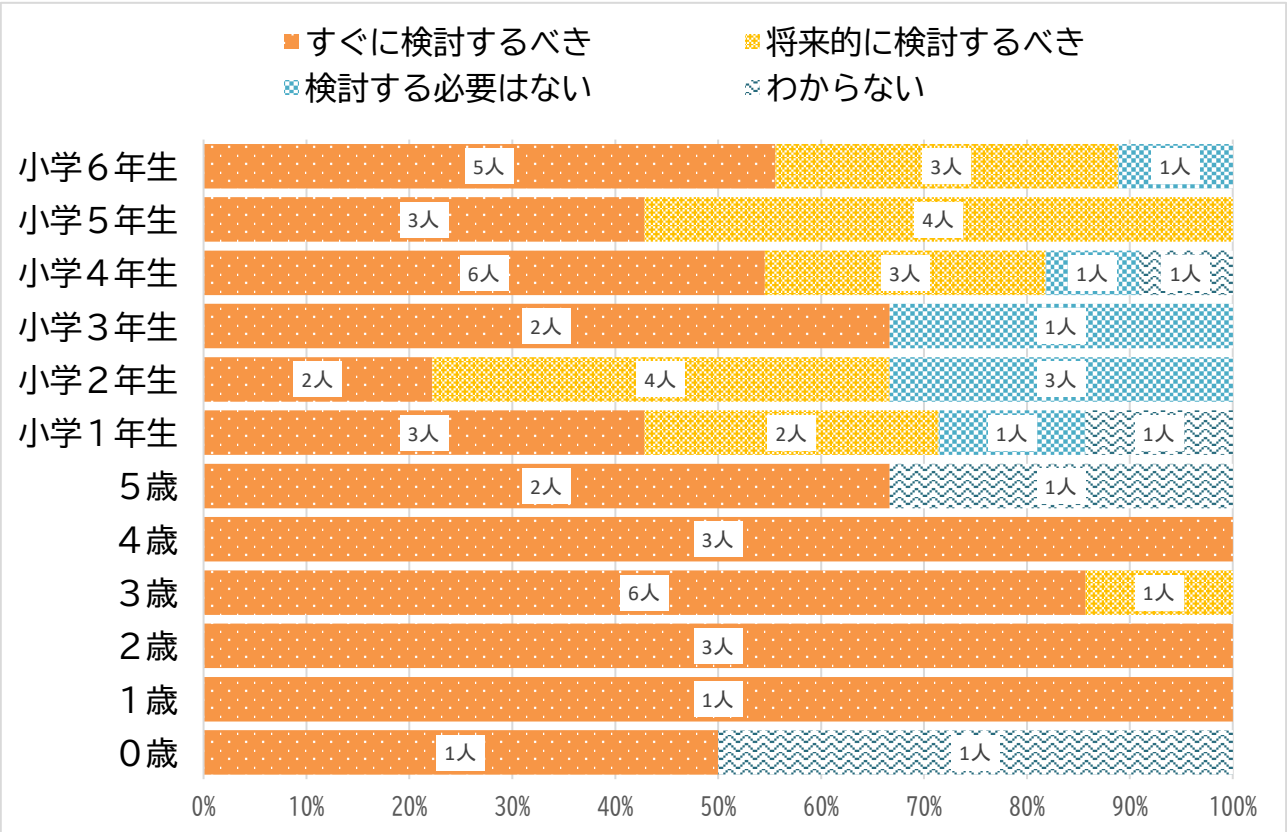


問５　河間小学校は、学校の適正配置（統廃合等）についての検討が必要だと思いますか？

河間小学校の適正配置の検討については、「すぐに検討するべき」が最も多い 55.8%。次いで、「将来的に検討するべき」が多く、27.9%となっており、二つを合わせると、「検討するべき」との回答が、全体の 83.7%を占めています。

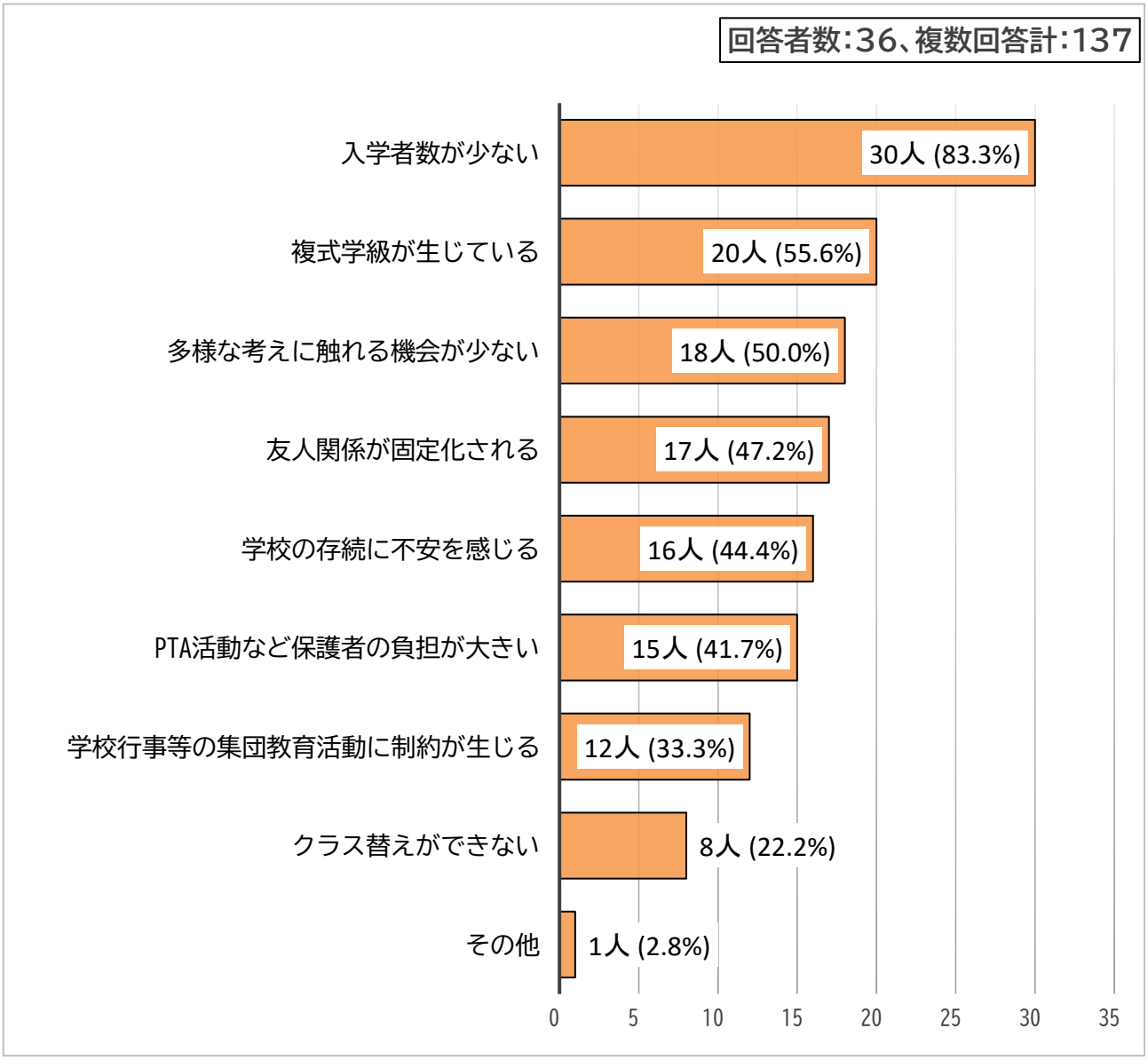
特に、未就学のお子様がいる世帯では、「すぐに検討するべき」の回答の割合が高い傾向が見られます。





問６-１　検討するべきを選択した理由は何ですか？【複数選択可】

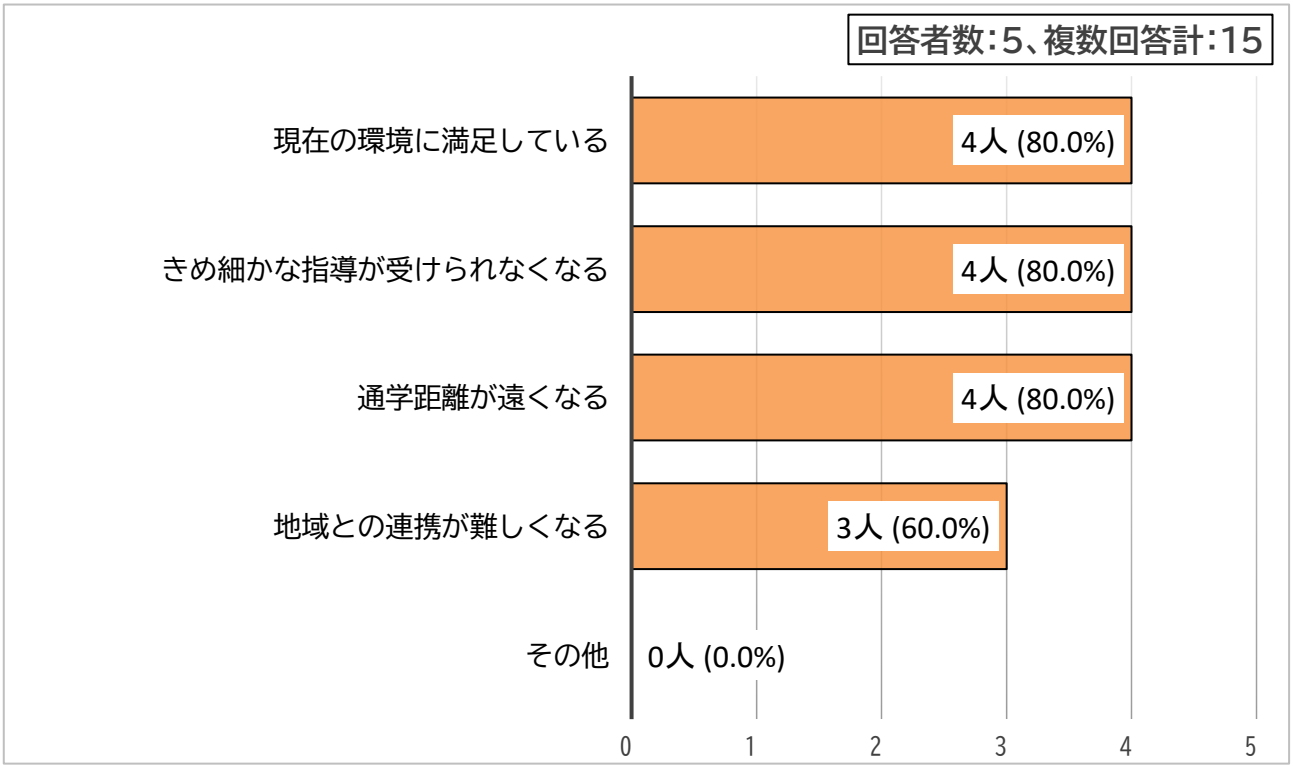
問５で「すぐに検討するべき」又は「将来的に検討するべき」を選択した理由としては、「入学者数が少ない」が最も多く、回答者の 83.3%が選択しています。次いで、「複式学級が生じている」が多く、55.6%となっています。



＜その他の意見＞	
1	維持できれば小規模でも維持してほしい。

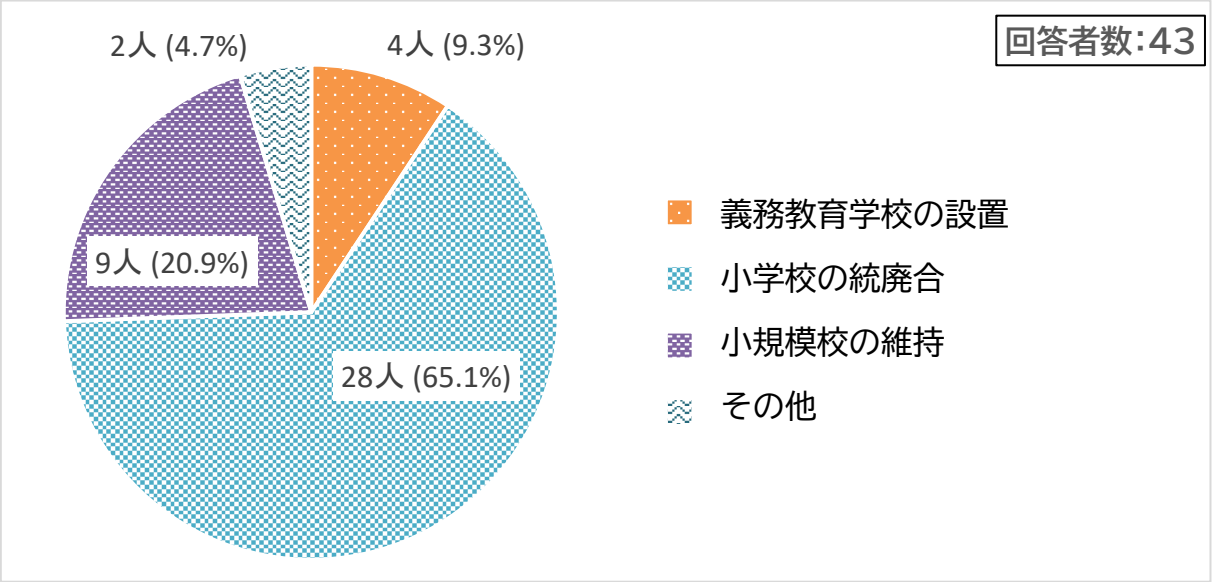
問６-２　検討する必要はないを選択した理由は何ですか？【複数選択可】

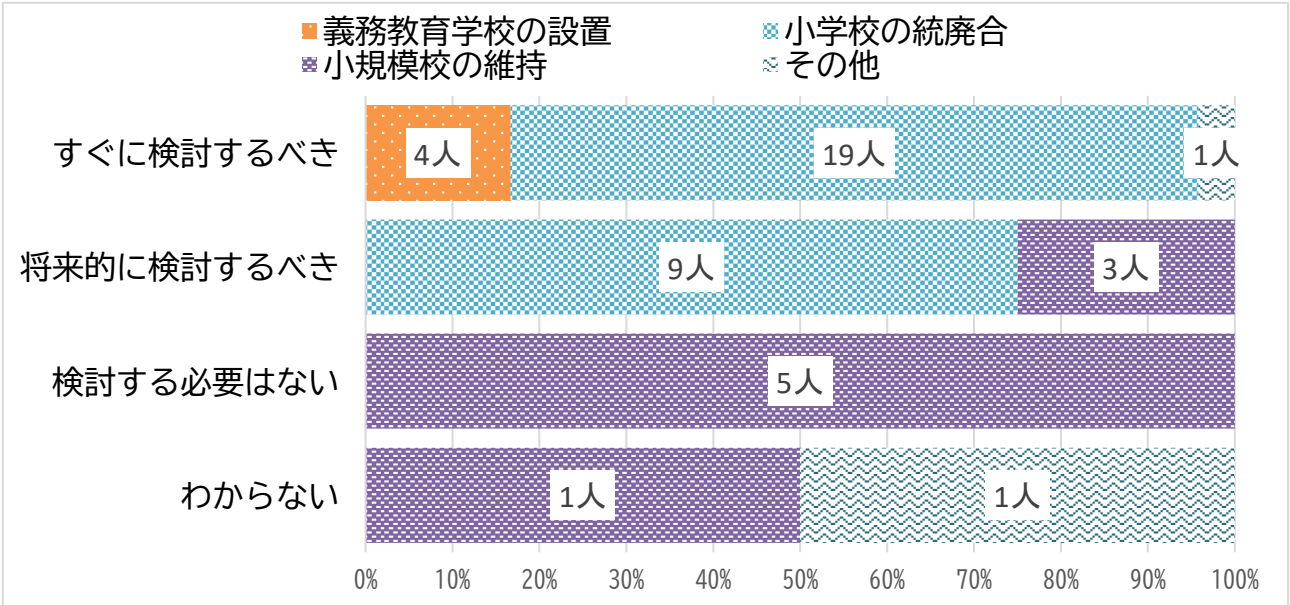
問５で「検討する必要はない」を選択した理由としては、「現在の環境に満足している」、「きめ細かな指導が受けられなくなる」、「通学距離が遠くなる」が同数で最も多く、回答者の 80.0%が選択しています。



問７　今後の河間小学校の適正配置の対応として、何が適当だと思いますか？

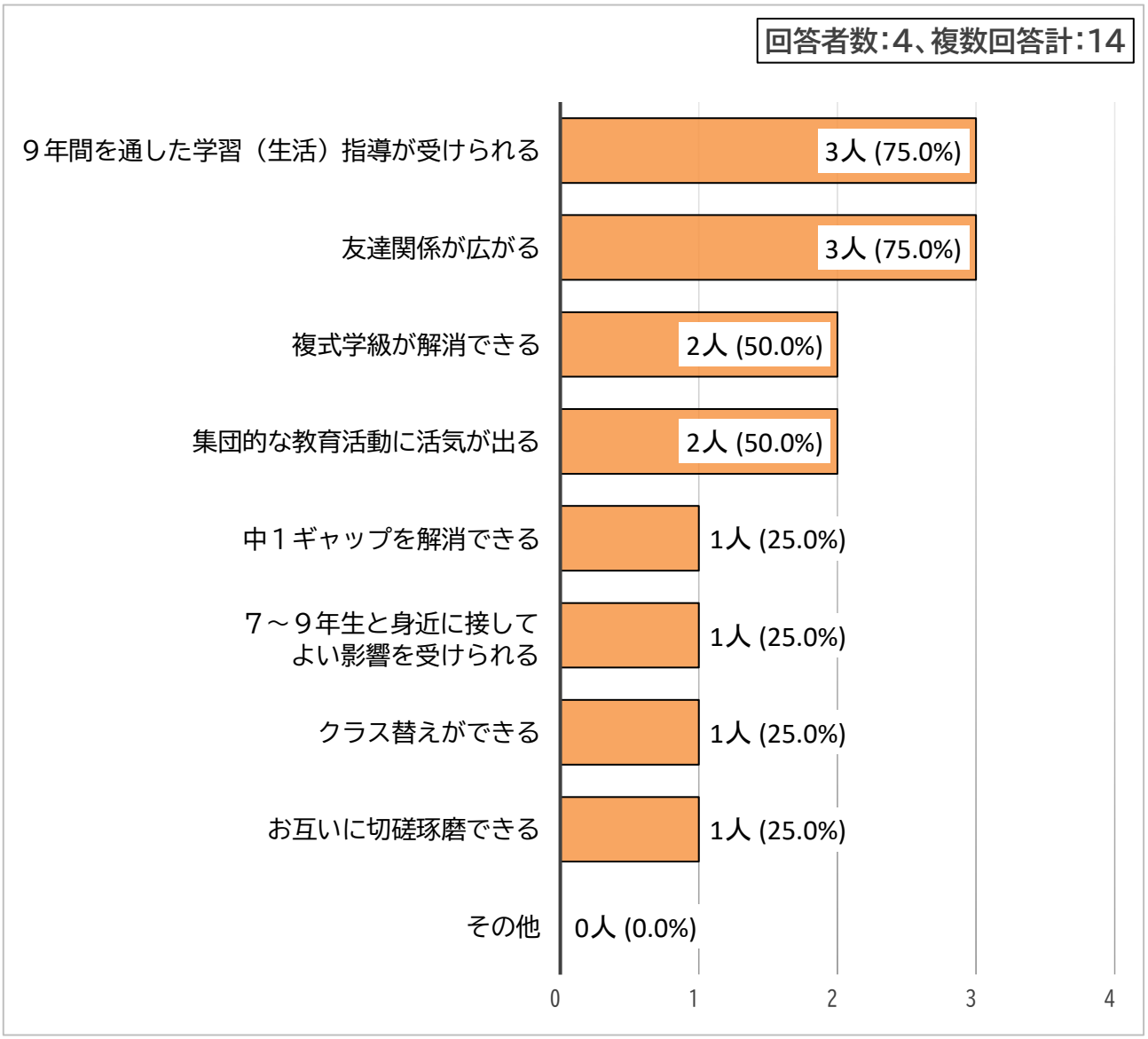
今後の河間小学校の適正配置の対応については、「小学校の統廃合」が最も多く、過半数の65.1％を占めています。次いで、「小規模校の維持」が20.9％、「義務教育学校の設置」が9.3％となっています。





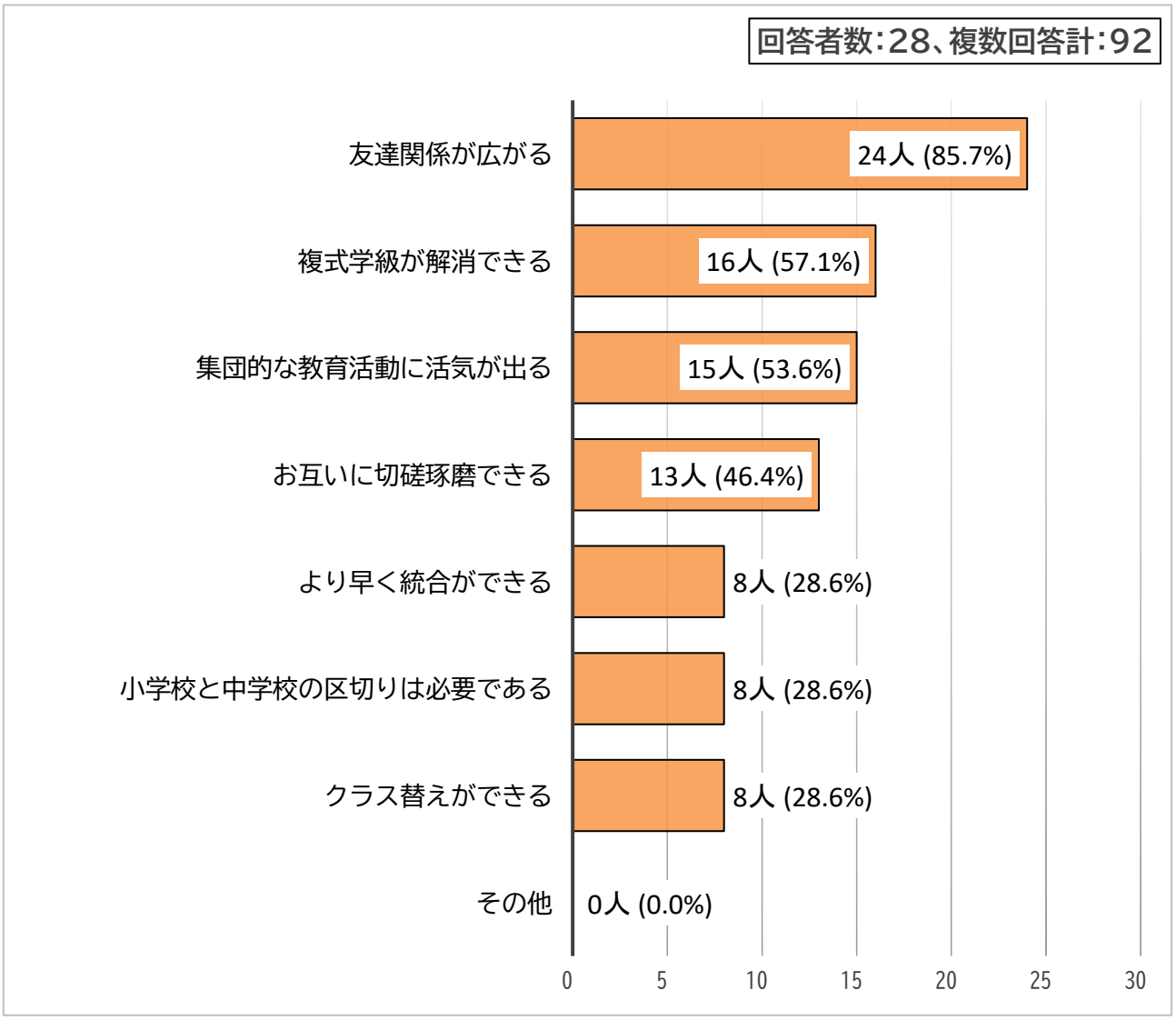
問８-１　義務教育学校の設置を選択した理由はなんですか？【複数選択可】

問７で「義務教育学校の設置」を選択した理由としては、「９年間を通した学習（生活）指導が受けられる」、「友達関係が広がる」が同数で最も多く、回答者の 75.0%が選択しています。次いで、「複式学級が解消できる」、「集団的な教育活動に活気が出る」が多く選択されています。



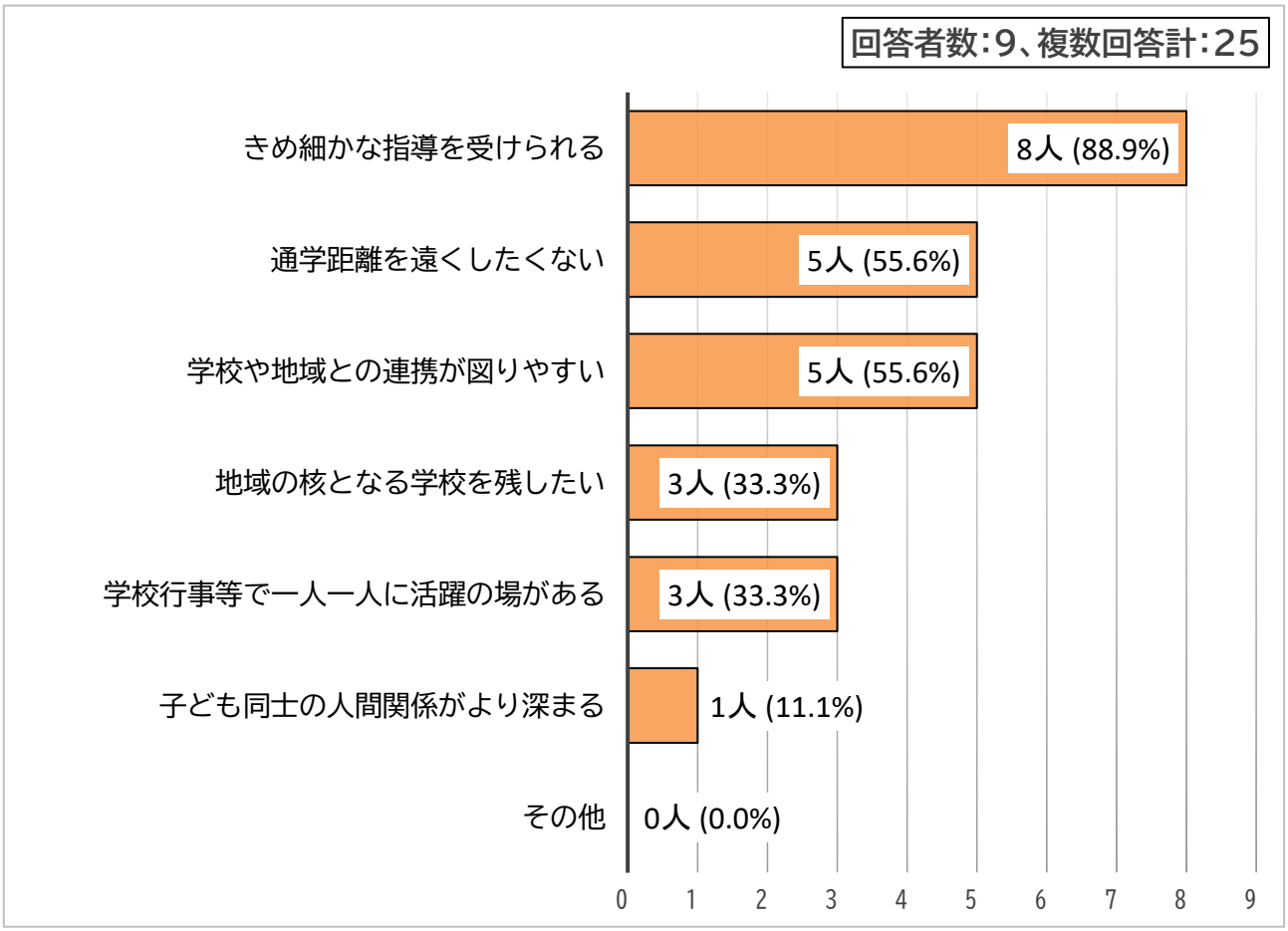
問８-２　小学校の統廃合を選択した理由はなんですか？【複数選択可】

問７で「小学校の統廃合」を選択した理由としては、「友達関係が広がる」が最も多く、回答者の 85.7%が選択しています。次いで、「複式学級が解消できる」、「集団的な教育活動に活気が出る」が多く選択されており、この３つは、問８-１の結果でも上位になっています。



問８-３　小規模校の維持を選択した理由はなんですか？【複数選択可】

問７で「小規模校の維持」を選択した理由としては、「きめ細かな指導を受けられる」が最も多く、回答者の 88.9%が選択しています。次いで、「通学距離を遠くしたくない」、「学校や地域との連携が図りやすい」が多くなっています。



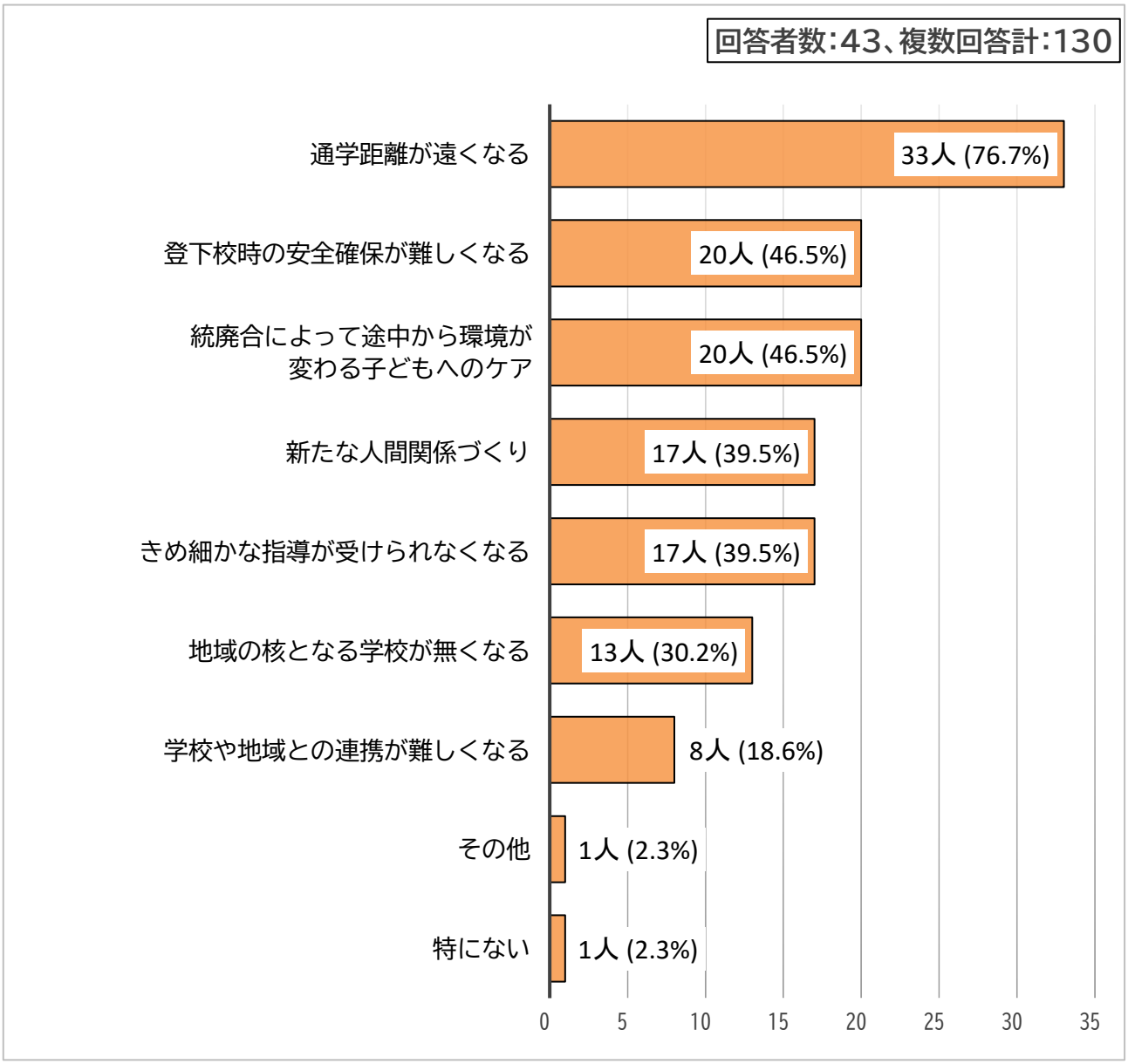
問８-４　その他を選択した理由は何ですか？【自由記述】

回答者数:2

No	回　　答
1	単なる小中学校の統廃合や既存の枠組み維持ではなく、予測困難な時代を生き抜く子どもたちのために、ICT 環境の充実や柔軟なカリキュラム、地域社会全体で育む新しい教育モデル（または小中一貫や特認校制度など）も含めた、多角的な視野での抜本的な再編を早期に議論・実行すべきであるため。
2	（割愛）

問９　適正配置（統廃合等）を進める上で不安なことはなんですか？【複数選択可】

適正配置を進める上で不安なことについては、「通学距離が遠くなる」が最も多く、回答者の76.7%が選択しています。次いで、「登下校時の安全確保が難しくなる」、「統廃合によって途中から環境が変わる子どもへのケア」が多く選択されています。



＜その他の意見＞	
1	北中学校を例に、本当にそれが正しいのか。

問 10　学校の在り方や適正配置について、ご意見がある場合は、自由に入力してください。

No	回　　答
1	河間小の伝統などは続いて欲しい。
2	小規模校ならではの良さもあると思っています。 きめ細かい学習指導や生活指導が受けられる 他学年間の交流が多い 人数が少ないことで、1 人ひとりが係活動や、委員会活動に責任を持って取り組める 等です。 大規模校に馴染めない子の新たな選択肢として、小規模校への転校で手厚い指導をするとか、他県で成功例はないのでしょうか？（ニュースでそのような学校をみたことあります） 小規模校ならではの良さもあるので、統廃合で大規模校になることへの不安もあります。
3	河間小学校の現状（複式学級、極端な小規模校化）は速やかに解消するべきだと思います そのためには、可能な限り早い対策として小学校の統廃合は良いと思います。 一方で、多様化する学び場の在り方として、小規模校のメリットも確実に存在するし、現に河間小学校で育った多くの子どもたちやその保護者たちが小規模校のメリットを享受してきたことも感じています。 これまで学校の在り方を議論するなかで、小規模校を活かす方策が論じられなかったことに不満を感じています。 小規模特認校制度等を活用した他自治体の事例も検証し、学校の在り方を議論するべきだと思います。 地域の大人や子どもが自分事として考えられるよう、行政は発信していただきたいです。 明野五葉学園が開校し、協和地区での取組が活発化していく中、以前も保護者アンケートが有りましたが、河間小学校はもとより、嘉田生崎小学校なども複式学級の問題が放置されたままで、地域の不安や不満は年々高まっています。 特に河間地区の住民は下館北中学校の閉校、下館中学校への統廃合に至る過程において、惨憺たる状況を目の当たりにしてきました。 結論としての統廃合はやむを得ませんが、統廃合ありきの話とせず、小規模校の検討も含めた多様な選択肢の中から、よりベターな適正配置に向けた議論を地域に寄り添って、早急に進めることを切に願います。
4	地域の中には反対意見もあると思いますが、子どもたちを第一に考え早急に統廃合を実現していただきたいです。 小規模校として継続するのであれば、他校に通う場合の通学支援を検討願います。
5	複式学級にならない程度の小規模なら今のままで良いと思いますが、複式学級になるなら早めに統合した方が良いと思います。
6	統廃合された場合、登校方法が気になる。毎日保護者の送迎は負担が多すぎるのでバスなど出てほしい。
7	本当は自宅から近くの河間小学校に通わせたいけど、人数が少ないため遠い学校を選ばざるを得ないので公式的に統合や一貫校への切り替えを早急に対応していただきたい。

No	回　答
8	近隣に同学年の子が居ると、同じ学校に通わせたくなる。しかし、勉学面や友人関係を考慮すると不安の残る複式学級としてまでは通わせたくなはない。近隣の方とは同じ学校へ行かせてあげたい思いから、早急に河間小学校を廃止して、別の小学校へ入学させてあげたい。
9	今の時代、順位をつける事がなくなり、お互いに切磋琢磨して頑張るという事が出来なくなっていることについて不安を感じている。 ライバルがいるから頑張れる、あの子には負けたくないという気持ちが頑張る意欲になると思うので。 また、クラスの人数が少ないので勉強は先生の目が行き届いていいとは思いますが、今度中学生になった時に大人数の中に入って行けるのか、ちゃんと友達が作れるのかいじめにあわないか不安です。
10	そもそもこの問題はかなり前から市では把握したいたのではないですか？ちょっと厳しいようですが今更感があります。 PTA だって存続させる意味すら感じないのにずっと続いてたりと保護者の負担、子供の成長に大きな課題になっていたはず。 申し訳ないですが市の考えについて共感できません。 即刻、進めてください。
11	河間小学校の児童数が今後さらに激減し、複式学級やクラス替えの制限といった環境課題が深刻化している現実を踏まえると、子どもたちの社会性や多様性を育むために早期の適正配置（統廃合や新たな教育環境の整備）は避けられないと考えます。 一方で、学校が地域コミュニティの核としての役割を失うことや、遠距離通学における登下校の安全確保、多感な時期に環境が大きく変わる子どもたちへの精神的ケアは最大の懸念事項です。 単に学校を減らすという消極的な統廃合ではなく、スクールバスの運行支援や通学路の安全対策、地域住民や保護者が参画しやすい柔軟なコミュニティスクールの設計など、子どもたちの未来の学び舎と地域活性化を両立できるような、市による手厚いサポートと計画的な行政支援を強く要望いたします。
12	少子化が進んでいて、1クラス 10 人ほど、な未来なんて想像しませんでした。河間小学校にははいらず、他の小学校に入った人もいます。逆に、河間小学校は人数が少ないので、先生に手厚くみてもらえる、と河間小学校に入った人もいるようです。河間小学校が、これから入る生徒が少ないなら、中学校に入った時、人数が少ないのは不利かもしれないので、他の小学校と一緒になるのは賛成です。中学校に入学した時、知り合いが多いほうがいいと思うからです。宿泊学習も他の小学校と合同な形が続いています、それも賛成です。すぐに統廃合は無理でも、複式学級や、他の小学校と合同など、色々な生徒、色々な小学校と、一緒に活動できる機会がたくさんあるといいと思います。
13	小規模でも運営できればそれを望みますが、維持が困難な場合は、統廃合を考えざるをえないのかもしれません。 数年前、下館北中学校が閉校し、下館中学校と統合しましたが、あの綺麗な歴史ある学校を閉校したことに疑問を感じております。

No	回　　答
14	児童の人数が少ないと活動が制限されて可哀想と言う意見も耳にしますが、そんな事は無いと思います。先生からのきめ細かな指導を受けられて、先生のサポート体制が密になっている事は児童の成長にすごくプラスになっていると思います。絶対に大人数が良いとは限らないと思います。大人数に対応できない児童もいると思います。そんな児童のためにも、「大人数の小学校」と「小人数の小学校」の両方が必要だと思います。授業内容の違う、一般的な勉強をする小学校もあれば、例えば農業や専門分野を取り入れた特別な小学校（クラス）もこれから必要になってくるかもしれません。小学校は一律こうするべきだと考えを持たないで、もっと視野を広げ、次の次まで考えて柔軟に検討する事が大切だと思います。現在の河間小学校の小人数だからできる先生方のサポート体制には子供も親もすごくありがたいと思い感謝しています。
15	問題児がいる複数学級は、成り立たない。 他の学年の先生が来るようだと他の学年の授業か進まない。
16	他に、先にやらなければいけない事があるでしょうと設楽市長にお伝えください。

【アンケートの前にお読みください】
河間小学校の在り方について

令和８年７月
筑西市教育委員会

はじめに

筑西市教育委員会では、学校の適正規模・適正配置について検討を進めています。

この度、現在、**複式学級**が編制されている河間小学校の今後の在り方を検討する上での基礎資料とするため、河間小学校区の保護者の皆様を対象にアンケートを実施することになりました。

将来を見据え、次代を担う子供たちにとってどのような教育環境が望ましいのか、また、「地域の学校がなくなる不安」や「通学への負担」など、様々なご意見があるかと存じます。本アンケートを通じて、皆様の率直な思いをお聞かせください。

本資料は、現状の課題と今後の検討の方向性をまとめたものです。**アンケートへの回答にあたり、ぜひご一読ください。**



※ 複式学級とは…
２つ以上の学年で構成される学級のことです。異なる学年が同じ教室で授業を受けます。
複式学級の基準は、引き続く２つの学年の児童数の合計が 16 人（１年生を含む場合は８人）以下の場合です。

１．児童数・学級数の現状と推移

本市の児童数は、全国的な少子化の影響を受け、著しく減少しています。特に、河間小学校においては、一部の学年で「**複式学級**」が編制されるなどの状況にあります。

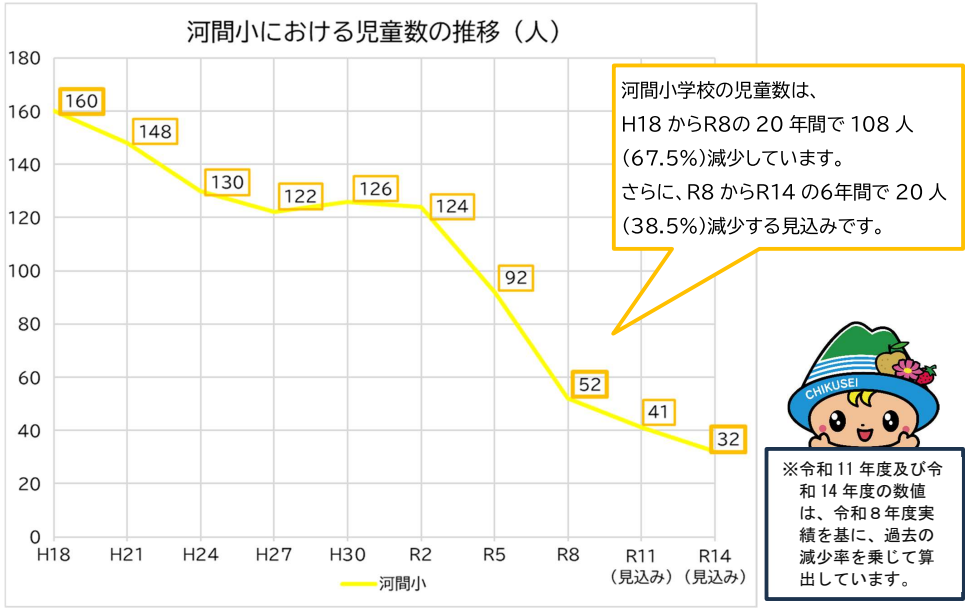
■ 年度別児童数・学級数

学校名	令和８年度（R8.5.1 現在）		令和 14 年度（見込み）	
	児童数	学級数	児童数	学級数
河間小学校	52	5	32	4

■ 年度別学級数の内訳

年度	１年	２年	３年	４年	５年	６年	計
令和８年度	1	1		1	1	1	5
令和 14 年度	1	1		1		1	4

※ 　は、複式学級



２．筑西市の基本方針と複式学級における課題

筑西市では、子供たちが社会性や多様性を育むために必要な「適正規模」を以下のように定めています。

小学校	クラス替えが可能である各学年２学級以上となる**１２学級以上**
中学校	クラス替えが可能で全ての教科の担任が配置できる**９学級以上**

また、複式学級については次のような課題が指摘されており、早急に必要な対応を行うものとしています。

複式学級で指摘されている主な課題

● 直接指導時間の不足

先生が一方の学年を教えている間、もう一方の学年は課題学習となり、直接指導できる時間が少なくなる。また、先生は複数学年分の教材研究・指導準備を行うことになり負担になる。

● 集団教育活動の制限

運動会などの学校行事、音楽活動やグループ学習などの集団教育活動に制約が生じやすく、多様な学習・指導形態が取りにくい。

● 切磋琢磨する機会の不足

多様な考え方や意見に触れ、同学年の仲間と刺激し合って、学習意欲や運動能力を高める切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。

3．今後の取り組み例

参考に、取り組み例を示します。

パターン	1）義務教育学校※の設置	2）小学校の統廃合	3）小規模校の維持
	同じ中学校区の、中学校・小学校を統合し、義務教育学校を新設する。	他の小学校と統合する。	現状（小規模校）を維持する。
特徴	**○ 複式学級の解消** 児童数が増えることで、複式学級の解消が期待される。 **○ 学校行事や集団教育活動の活性化** 学校行事がより盛大になり、集団教育活動に活気が生じやすい。また、教員数がある程度多いため、グループ学習や習熟度別学習など、多様な学習・指導形態を取りやすい。 **○ 豊かな人間関係の構築** 豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすく、多様な考えに触れる機会が多くなりやすい。 **○ 健全な競争意識の醸成** 集団の中で切磋琢磨することで、一人一人の資質や能力を伸ばしやすく、社会性や協調性を育みやすい。		**○ 児童へのきめ細かな教育と指導** 児童一人一人に対する教員の目が行き届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい。 **○ 児童一人一人の個別活動機会の確保** 学校行事等において児童一人一人の個別の活動機会を設定しやすい。 **○ 異学年との交流機会の確保** 児童間の人間関係が深まりやすい。学年を越えた活動が多く異学年交流が促進されやすい。 **○ 地域コミュニティの核** 保護者や地域住民との連携が図りやすく、交流が活発となり、学校が地域の活性化に貢献することが期待できる。
	○ ９年間を見通した系統的な教育課程の編制 小学校と中学校が目指す児童生徒像を共有し、９年間の系統性・連続性のある教育課程を編制できる。 **○ 「中１ギャップ」の軽減** 連続性のある教育によって、小学校教育から中学校教育への円滑な移行を促すことが可能となり、中学１年生になったときに新しい環境での学習や生活に不適応を起こす「中１ギャップ」を軽減しやすい。	**○ 小学校と中学校の区切りによるメリハリ** 入学・卒業の区切りがあることで、成長や自覚を促すことができ、小学校高学年の時期にリーダーシップを発揮する機会を多く設定しやすい。また、固定されがちな人間関係が再構築されやすい。 **○ 比較的、早期・低コストでの統合が可能** 既存校舎の活用を前提とするため、義務教育学校のように新校舎の建設等がなく、比較的、工期や費用を抑えて統合することができる。（一部既存校舎の改修を行う可能性あり。）	

※　義務教育学校とは、小学校と中学校の義務教育９年間を一貫して行う学校制度の一つです。小学校にあたる前半６年を前期課程、中学校にあたる後半３年を後期課程と呼び、中学１～３年生は７～９年生と呼びます。

4．学校施設の老朽化問題

市内の小中学校の校舎・体育館の多くは昭和 40～50 年代に建築されています。できるだけ施設を長持ちさせていく（長寿命化）計画としていますが、コンクリートの寿命などを考慮して建替時期の目安を 70 年とすると、令和 20～30 年代に一斉に建て替え時期を迎えることになります。

これらをすべて現在の規模で維持・更新することは、将来的に大きな財政負担となる見通しです。

小学校	建築年度	築年数
下館小学校	S 47～53 年度	48～54 年
竹島小学校	S 46～54 年度	47～55 年
中小学校	S 41～57 年度	44～60 年
河間小学校	S 44～57 年度	44～57 年



参考：筑西市のこれまでの取り組み

H27．7　「筑西市小中一貫教育及び学校の適正規模・適正配置の基本方針」を策定
H27．9　「筑西市学校の在り方検討委員会」を設置
H31．2　義務教育学校・明野地区準備委員会を設置
R元．9　「学校の在り方」下館北中学校区保護者協議会を設置
R５．4　下館北中学校と下館中学校を統合
R６．1　学校の在り方検討委員会からの「協和中学校区において、義務教育学校（施設一体型）の設置、又は小学校統合による適正配置を検討すること」、**「適正規模を満たさない小学校について、将来的な義務教育学校（施設一体型）の設置を目指しつつ、必要に応じて小学校統合による適正配置を検討すること」**との答申を受け、基本方針を改定
R６．4　明野五葉学園（義務教育学校）を開校
R７．2　義務教育学校・協和地区準備委員会を設置